

2023年 11月 9日 第2541回例会
11月第2例会

RI会長テーマ: Create Hope in the World
「世界に希望を生み出そう」

本年度会長テーマ Build FUTURE
「50年の過去に感謝し、50年先の未来を築こう」

「ロータリー財団月間」

◆ 会長時間 ◆

諏訪(浩)会長

【奉仕の実践—アメリカ人は得意、日本人は苦手?】
ロータリーは自己教育運動です。



今日は、日本人は奉仕活動を実践するのが苦手であるという話です。単純比較はできませんが、大雑把にアメリカと比較して進めます。

概してアメリカ人は奉仕が得意です。これは以前申し上げたように、本当に大雑把に言いますと、減少傾向にはありますが今でも国民の過半数、約60パーセントがキリスト教徒であるアメリカでは、多くの国民がキリスト教の教義の大きな影響を受けて育っていて、キリスト教の教義として人のためになるという行為を生活習慣にできているからです。これに比べると、我が日本では人のために奉仕ということが生活習慣になっている方は少ないのではないのでしょうか。

しかし、実は日本には、ロータリー創設のずっと前から、ロータリー的な奉仕概念が存在します。たとえば近江商人の、売り手、買い手、世間の「三方良し」という理念や、私利私欲に偏らずに社会に貢献すれば、いずれ自らに還元されると説く二宮尊徳の「報徳思想」です。それなのになぜ、多くの日本人はこれを生活習慣にできなかったのでしょうか。

そこにはこういう理由があったのです。明治以前は、他人のことよりも、まずは家内安全、家業繁盛が優先という雰囲気が強い国でしたし、現在

でも、お寺や神社で、他人のために祈るよりも、ご自身やご家族のために祈る方が多いのではないのでしょうか。つまり、人のためになるという思想はあったのだが、「なぜ自分が大変なのに人様のために何かしないといけないのか?」ということで、まず自分が大事という考え方が強かったこと。そして、奉仕を実践するエネルギーがなかったことが原因だと思われます。

このような事情で、日本のロータリアンは、奉仕が大事だと頭でわかってはいるが、できるだけ楽に、できればお金を出せば済むような奉仕を追い求め、本当に人のためになるうじゃないかと心から思い、それを実践するということが苦手な傾向にあるようです。

RIが現在のようにロータリーの奉仕概念の伝承に消極的になっても、奉仕が生活習慣になっているアメリカのロータリアンは積極的に奉仕を実践できますが、そうではない、奉仕の実践が苦手な日本のロータリアンは、「自己教育運動」で、まずは「人に優しくする」という奉仕の心を養い、それをエネルギーにして奉仕を実践する、こういうことが絶対に必要なのです。皆さん、ロータリーは「自己教育運動」です。是非、真剣に取り組んでいただき、しっかりと「奉仕の心」を養ってください。

● 卓話予告

日時	テーマ
11/30(木)	「笑って師走を迎えましょう!」 落語家 ジャンボ衣笠 氏

● 会務報告 吉田(大)幹事

11月12日(日)に広島グリーンアリーナにおいて開催される第2710地区 地区大会のプログラムをBOXに配布しております。併せてご出席の回答をいただいた方に「受付のご案内」を配布しておりますので、ご確認ください。

● 第6回理事会議事録

日時 2023年11月2日(休) 例会終了後～
場所 ANAクラウンプラザホテル広島 4階
「アマリリス」

報告事項

- ① 各委員会活動状況について
12月26日に開催される平和推進に関する異なる地区の学生のプログラム(平和学習)に、修大協創IACより先生1名、生徒1名の参加希望があり、中岡委員長も参加する。参加費負担を当クラブにお願いしたい。
12月5日の見守りジャンパー寄贈式、11月28日のなぎさ園の寄贈贈呈式に理事会メンバー全員の参加が叶った。
- ② 10月度収支計算報告について
- ③ 美祢地域大雨災害支援について
- ④ 消費税インボイス対応について
- ⑤ インターシティ・ミーティング全員登録について

審議事項

- ① 第5回理事会議事録の承認について 異議なく承認
- ② 10月19日職場訪問例会 報告 異議なく承認
- ③ 1月25日職業奉仕部門クラブフォーラムについて 異議なく承認
- ④ 10月5日米山奨学強調プログラム 報告 異議なく承認
- ⑤ 1月卓話プログラムについて 異議なく承認
- ⑥ 12月21日夜間例会並びに家族同伴懇親会について 異議なく承認

次回開催日

12月7日(休) 例会終了後～ANAクラウンプラザホテル広島

● 委員会報告

※ プログラム・出席委員会

出席報告 南條副委員長

本日(11月9日・木曜日)
会員数 90名 出席者 76名
欠席者 14名 ご来客 1名
ご来賓 0名 ゲスト 3名
計 80名
4週前の例会2023年10月12日・木曜日
出席率 100%



※ 会報雑誌・広報委員会

宍戸君

ロータリーの友誌紹介

※ 地域・環境委員会

木本副委員長

ニュースや新聞でご覧になった方も多と思いますが、昨日、11月8日(水)、国際ロータリー第2710地区の記念事業として、今年5月に開催されたG7ひろしまサミットに参加された各国首脳「平和へのメッセージ」を刻んだ石碑が比治山公園のエントランス広場に設置され、約80名が出席して除幕式が開催されました。当クラブはこの記念事業に1人当たり5,000円を拠出しており、諏訪(浩)会長と熊本副幹事が除幕式に参加しました。

今週末に開催される地区大会で、広島市に寄贈する予定で、その後一般公開されますので、是非足をお運びください。

● 会員記念日

祝 連続出席100% (3名)

古屋君 (30年) 金本君 (28年)
田川君 (4年)

連続出席記念品贈呈



30年 古屋 憲次君

🎁 ご結婚記念日おめでとうございます。

(11名)
井原君 藤田(明)君 齊藤君
山木君 部谷君 荒川君
原君 中村(哲)君 南條君
浜田君 小宇羅君

●スマイルボックス SAA 長谷川(剛)副委員長

広島YEGのOB・OGの皆様

10月26日、2023年日本プロ野球ドラフト会議が開催されました。その中で4巡目に交渉権を獲得した仲田 侑仁 君は、沖縄尚学高等学校で4番を務め、夏の甲子園にも出場し、慶應との準々決勝では逆転負けを喫したものの先制の2点本塁打を放った好打者です。

私が平成26年度広島YEG会長を務めた年の、日本YEG会長 現那覇北RCの仲田 憲仁さんのご子息です。その当時何回も広島に来られ交友を深めました。

仲田 侑仁 君の益々のご活躍を祈念し、広島YEGのOB・OGの皆様、喜んでご出宝お願いします。

●スマンボックス

会報雑誌・広報委員会 会報校正担当

隅田 高士 委員長、小田 清和 副委員長

本日配布しました、11月2日例会分会報誌3ページ左上の「会員組織部門」は「財団部門」の誤りです。

訂正しお詫び申し上げます。

■卓 話

広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校 インターアクトクラブ活動報告



顧問
山下 恵 先生

馬場 健人 君(左)
重森 優空 君(右)

本日は広島西RCの例会にお招きいただき、ありがとうございます。

広島修道大学ひろしま協創高等学校で教員をしております、山下 恵と申します。簡単にではありますが、私の自己紹介をさせていただきます。1989年広島市生まれ、ずっと広島市で育ちました。県内の大学で英文学の学士号、修士号を取得し、卒業後すぐに、現在の修大協創高校の前身である鈴

峯女子高等学校に、英語科の教員として赴任いたしました。今年で9年目になります。インターアクトクラブには、赴任1年目から関わらせていただいております。

本校が広島修道大学と合併し、まさに大きな転換をしていく、という時期にやってきたのですが、私自身はといいますと、部活動における生徒とのかかわり方からクラブの運営、授業の進め方まで、わからないことだらけ、うまくいかないことだらけで、消耗しきってしまいました。(今だからこそ言えるのですが)「来年こそは辞めてやる!」という思いを心に、日々奮闘していたように思います。

そんな私も、多くの生徒保護者、地域の方々、クラブを通じての他校との交流や、広島西RCのみなさまに支えられ、少しずつではありますが要領を得、歩幅は小さくともすこずつ成長を遂げてくることができたかな、と思っております。振り返ってみると、いつも悩みのたねは生徒のことばかり、一方でそのような自分を気にかけて、励まし声をかけてくれたりと、救ってくれたのも生徒でした。



教員という仕事は、すぐに結果が出るものではありません。今でも本当にこれでよかったのだろうか?と思うような出来事も多々あります。自分の仕事が本当に実を結んだかどうかは、彼ら・彼女らが卒業した何年か先のことになるのだらうと思います。それでも、生徒たちのことを信じ、私の言動が彼らの将来のためになるのだろうか?ということ常にとどめ、今後も精進してまいりたいと思います。

それでは、本題に入りたいと思います。本来であれば校長の白岩も同席のもと、本校の教育についてお話できればと考えておりましたが、本日は所用のため、白岩につきましては欠席とさせていただきます。

今回は2部構成としまして、第1部は協創教育について、そして第2部では、本校インターアクトクラ

ブの部員より、最近の活動についてお話させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本校の教育について（動画）

みなさん、こんにちは。

広島修道大学ひろしま協創高等学校の2年生馬場 健人と、同じく2年生 重森 優空です。

本日は、私達インターアクトクラブの活動報告にまいりました。

最初に、インターアクトクラブの人数についてです。男子14人、女子11人合計25人で活動しています。活動日は毎週金曜日16時から16時30分に例会があります。

それでは最近私達がおこなってきた活動について報告していきます。

1つ目は広島市内で行われた広島修道大学のさつきステージの手伝いです。6月10日に、私たちは広島市内で開催されたフラワーフェスティバルに参加し、屋台の運営の手伝いをしました。私たちは「フラムーネ」という商品の販売に力を入れました。「フラムーネ」は福島県いわき市の高校生が考案したラムネで、東日本大震災の復興を願っている人たちへの感謝の気持ちを込めてプロデュースされた物です。その思いをつなぐために私たちが販売をし、サポートしました。当日の活動は6月と思えないほど暑く、長時間の活動だったため呼びかけをも大変でしたが、無事完売することができ、達成感がありました。

2つ目はショッピングモールで献血のお願いの呼びかけです。私たちは、地域の健康をサポートするためにショッピングモールで献血協力の呼びかけを行いました。8月5日に、他の部員がイオンモール府中店で献血キャンペーンに参加しました。この日の目標達成人数が50名で、特にO型の血液が不足していました。他の学校の参加者と協力しながら呼びかけをしてキャンペーン終了間近で何とか目標を達成することができました。

3つ目は地域の清掃活動です。私たちは9月22日(金)に学校周辺で清掃ボランティアを行いました。その日、私たちは学校から五日市駅までの道のり

を2つのチームに分かれ競争しながら清掃を行いました。しかし最終的にはごみ拾いに夢中になり競争していることを忘れ他のチームと協力してゴミを集めていました。地域の美化と環境への配慮を念頭に置きながら、多くの人々が協力しました。この活動は、私たちの地域の美しさと持続可能性を支える重要な一環であり、誇りをもって取り組みました。ゴミにはお菓子類のものはあまりなくタバコの吸い殻などが多く落ちていてポイ捨てをしているのは大人が多いのかなと思いました。この清掃活動を通じて思ったことは、拾っても拾ってもきりがなく、捨てる人の意識を変えない限りはポイ捨ては無くならないと思いました。

4つ目は大竹市で行われた紙すき体験です。みなさんは広島の伝統技術のひとつに、大竹市の「手すき和紙」があるのを知っていますか？大竹の和紙づくりは、400年以上前から受け継がれている伝統ある技術です。11月3日、インターアクト部の部員たちが和紙づくりに挑戦するため、「おたけ手すき和紙の里」に行ってきました！

和紙ができあがるまでのプロセスを、簡単に紹介します。まずはじめに、「すき舟」という大きな容器に水をはり、紙の原料となる「コウゾ」、植物の根っこからとれる粘液の「ネリ」を入れてよくかき混ぜます。ネリを混ぜることで、コウゾの繊維が水中でからまないため、ムラなく紙をすくことができるそうです。今回は特別に、広島の平和公園に寄贈された折り鶴を細かく切ったものも混ぜ込ませてもらいました。次に和紙をプレスし、水分をしぼり出します。乾燥機で水分をさらに飛ばします。そして最後に和紙を乾燥機や板に貼り付け、乾かします。乾いたら和紙をゆっくり剥がし、完成です。

これらの和紙は今後の活動プロジェクトの一つである平和の発信に向けて役立てる予定です。続報をお待ちください。

以上が私たちの活動報告です。ご静聴ありがとうございました。

広島西RC 

例会日・木曜日 12:30～13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会 長 諏訪 昭浩
幹 事 吉田 大蔵

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail: hwrc@godorc.gr.jp
作 成・会報雑誌・広報委員会